



JAバンク

ぶかや農業協同組合

=JAぶかやをもっと知っていただくために=



2009
ディスクロージャー誌

プロフィール

(平成21年3月31日現在)

ふかや農業協同組合

(JAふかや(愛称))

設立日	平成13年4月1日					
本店所在地	埼玉県深谷市内ケ島728番地1					
出資金	15億6,779万円					
店舗等の状況	本支店	16				
(平成21年7月現在)	営農経済センター	1	直売所	7	給油所	4
	カントリーエレベーター	1	ライスセンター	4	LPGセンター	1
	農機センター	1	葬祭センター	1	選果センター	2
・職員数	252名					
・総資産	1,644億6,145万円					
・貸出金	188億5,861万円					
・貯金*1・譲渡性預金	1,486億9,774万円					
・純資産	119億491万円					
・経常利益	2億5,581万円					
・当期剰余金*2	1億7,371万円					
・自己資本比率	27.63%					

*1 貯金とは、銀行等の預金に相当するものです。組合では利用者側に立った「貯える」という考えで使用しています。

*2 当期剰余金とは、銀行等の当期純利益に相当するものです。

本誌に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。
本誌は、農業協同組合法第54条の3に基づき作成したディスクロージャー資料です。

目 次

ごあいさつ	2
J A 綱領	3
経営方針	4
J A ぶかやと地域社会	5
リスク管理/コンプライアンス/内部監査	6
地域社会貢献活動	9
トピックス	9
【資料編】	10
組合に関する状況	11
組織図・地区・役員・組合員数・職員の状況・組合員組織等	
業務内容	14
J A ぶかやの事業・業務のご案内	
J A ぶかやの商品・サービス	16
業績・財務関係の状況	21
業績の概要	
主要な経営指標等の推移	
財務諸表	
各種事業の状況	
自己資本比率・利益率	
店舗等一覧	54
開示項目一覧	56

ごあいさつ

組合員の皆様及び地域の皆様には、平素より私どもJAふかやをお引き立ていただきまして誠にありがとうございます。このたび、当JAふかやは第8期の決算を迎えました。本ディスクロージャー誌では、平成20年度のJAふかやの業務、経営課題への取組みや経営方針などをご紹介します。本誌を通じて皆様の私どもに対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

= 平成20年度の業績等について =

信用事業では、貯金獲得キャンペーンを実施し、貯金の増強に努めてまいりました。金利の低下・円高・株安等、マイナス要素が多い中、計画を超える実績となりました。また、住宅ローン相談会・年金相談会・相続遺言セミナーを重点に開催し、住宅ローンについては、多くの貸出実行に結びつき収益の増加となりました。年金相談会については、多くの方々にご来場いただき、当JAに振込指定をいただきましたので、貯金の増加に結びつきました。相続遺言セミナーでは、集合・個別相談会を実施し、遺言信託等の成果がありました。

共済事業においては、JA共済の使命として、組合員はもとより地域の皆様に「ひと」「いえ」「くるま」の総合保障を通じて「安心」と「満足」の提供を図るため、積極的な訪問活動に取組みました。自賠責・自動車共済では、代理店の協力を得て普及拡大に努め、併せて審査・査定体制の充実強化に努めた結果、多くのご理解により計画を上回る成果を得ることができました。

営農指導事業においては、燃油・肥料高騰緊急対策事業を実施し、肥料高騰対策における支援を行いました。担い手支援センターでは、担い手及び集落営農組織に対し水田経営所得安定対策支援を実施しました。

生活指導事業では、昨年度に引続いて女性部の未設置店舗解消に向けた事業展開を実施するとともに、女性部活動の一環として小学生を対象にした梅の収穫と梅干漬け体験を実施し、また、食農教育にも取組みました。

販売事業においては、春夏野菜は昨年2月に発生した中国冷凍餃子問題の影響を受け、中国からの輸入野菜が大幅に減少し高値で取引されました。秋冬野菜では、国内消費の後退により安価なものを求めるニーズが高まり、価格面での影響を余儀なくされました。花植木・肉牛も影響を受けましたが、全体としては上期の好調な販売を受け前年度とほぼ同様な実績を上げることができました。

購買事業の生産部門は、特に上期において原油の高騰を受けての肥料・生産資材の値上がりにより、農家経営に打撃となり事業展開にも大きく影響し取扱量では減少しました。また、生活部門の葬祭事業では、ホール葬が大勢を占める中において大きな支持・利用をいただき、取扱件数では昨年同様に推移いたしました。

= 経営目標について =

本年は中期3か年計画の最終年にあたり、各事業の計画目標の達成に向けた事業展開はもとより、遅れております北部営農経済センターの設置の具体化に向けた作業を進めてまいります。

そして、「地域と共に食と農の未来へ歩むJAふかや」をビジョンとして、「信頼される産地づくりと出向く営農相談の体制強化」、「健全性確保を前提とした顧客基盤拡充と収益力の強化」、「組合員・地域住民等の多様な保障ニーズに対応したサービスの提供」、「JAの事業機能・経営体質強化」に取組んでまいります。

= 経営方針等について =

基本姿勢である「信頼・貢献・改革」に向けて、特に2年間で積残された具現化を目指し鋭意取組むこととします。中でも、継続中の最重要課題である経済事業改革をより一層加速させ、経営の健全及び安定を目指します。

= おわりに =

JAふかやは、一丸となって、皆様の身近で地域と生活と営農に密着した金融事業から経済事業まで幅広く、かつ、質の高いサービスを提供する協同組合を創り上げてまいりますので、今後とも一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年7月

代表理事組合長 **根岸 芳弘**

J A 綱領

1 . J A 綱領

J A 綱領とは、J A グループが活動を展開するにあたり、J A グループの価値観であり、基本的姿勢を示したものです。

私ども J A ぶかやは、次に記す「J A 綱領」を最も根本となる理念と位置づけ、遵守しております。

J A 綱領 - わたしたち J A のめざすもの -

わたしたち J A の組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新を図ります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織として社会的役割を誠実に果たします。
わたしたちは

- 1 . 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1 . 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1 . J A への積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1 . 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、J A を健全に経営し信頼を高めよう。
- 1 . 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

2 . J A 綱領の解説

J A 綱領は、J A の組合員、役職員が次の5つの対象に対して社会的役割・使命を果たすことを宣言したものです。1番目が消費者に対して、2番目が地域住民に対して、3番目が事業の利用者に対して、4番目が出資者に対して、5番目が協同活動の担い手に対して、となっています。

農業協同組合として農業を振興して、新鮮で安全な食糧（「食」）を安定供給する機能と自然環境（「緑と水」）が有する公益的な機能を守り、「消費者」と国民の期待に応えていくこと。

緑豊かな地域循環型の環境づくり、地域の伝統文化や食文化の堅持とともに新しい地域文化の創造、農とのふれあい等を通じて、「地域住民」の生活を支援していくこと。

J A の「事業・活動への参加者（利用者）」の結集（「連帯」）と、他の J A、連合会や協同組合との「連帯」を力にして、適正な価格による質の高い商品とサービス（「協同の成果」）を実現し、人のふれあいを添えて「事業・活動への参加者（利用者）」に提供していくこと。

「出資者」が管理する「自主・自立」の組織として、自己責任経営のもとで「出資者」やその代表によりの確に管理監督できる「民主主義」が有効に機能する情報開示（信用の確保）、安定した財務構造の確立、企業家精神を鼓舞した積極的な挑戦（「健全な経営」）を実践することで、役職員・経営方針・施策などの「信頼」を高めていくこと。

から までに掲げた価値観（「協同の理念」）に賛同（堅持）する組合員、役職員、地域住民の仲間と共に、広く情報を収集し、共に学び、J A の活動に積極的に参加することを通じて、一人ひとりの自己実現の欲求を充足し、「生きがい」や働きがいを将来に向かって追及すること。

経営方針

1. 基本方針

J Aふかやは、平成18年11月に開催された「J A埼玉県大会」の決議を受け、3年間の基本姿勢である「信頼」「貢献」「改革」のもと「地域と共に食と農の未来へ歩むJ Aふかや」をビジョンとして掲げ、今年度は、「中期3か年運動計画書」の最終年度として、引き続き、安全・安心な農畜産物の供給基地としての信頼確保のための「信頼される産地づくりと出向く営農相談の体制整備」、組合員・利用者基盤の変容に対応していくための「健全性確保を前提とした顧客基盤拡充と収益力の強化」、さらにはコンプライアンス経営を基本とした「組合員・地域住民等の多様な保障ニーズに対応したサービスの提供」や「J Aの事業機能・経営体質強化」の4項目を重点に取組んでまいります。

2. 事業方針

信用事業方針

中期3ヶ年計画の総仕上げの年度であるなかで、金融機能と相談機能の充実、並びに担い手のメインバンクとしての確立強化及び顧客基盤の確立、リテール市場における競争戦略の展開、経営管理体制の高度化を図り一体的事業推進体制のもと、効率的かつ積極的な事業の展開に取り組み、コンプライアンスを基本に事業の健全化、さらに顧客満足度の向上を目指していきます。

（貯金）

地域の皆様に安心してご利用いただけるよう、年金相談会を継続的に開催し、安定的財源の確保に向け個人貯金の増強と更なる獲得とあわせ団塊の世代対策に努め、また、顧客ニーズを把握したなかで更なる金融サービス機能の拡充・強化に努めます。

（融資）

組合員及び地域利用者のニーズに対する的確な融資対応の実現、休日ローン相談会の毎月開催により、勤労者層等にも積極的にPRを行いローンの伸張に努めるとともに担当者の育成を図ります。

共済事業方針

組合員・利用者および地域の方々に、より信頼されるJ A共済を目指し「J A共済 ずっとサンキューキャンペーン」を基軸とした“絆の強化”と多様なニーズに対応した普及活動、審査・事故査定体制の強化を目指して事業を展開してまいります。

経済事業方針

信頼される産地づくりと出向く営農相談の体制整備を進め、さらなる農業振興と地域社会への貢献を目指し取組んでまいります。

（指導事業）

食糧供給力の強化と自給力の向上に向け、各種水田対策への対応を図ると共に、安全・安心の確保に向けた取組強化、経費削減への指導、営農情報の有効活用等、取組んでまいります。

（購買事業）

生産資材・生活物資の高止まり傾向のなか、組合員の負託に応えられる事業展開を図り、低コスト資材の安定供給・予約率の向上と、消費者ニーズに即した新鮮・安全・安心で健康と環境に配慮した商品の提供に努めてまいります。

（販売事業）

消費者ニーズは安全・安心に加え、景気悪化に伴う低価格志向と、販売環境は厳しい状況にあります。安全性の更なる対応強化と、共販機能を最大限に発揮した有利販売に努めてまいります。

（資産管理事業）

地域状況に則した資産管理・活用・相続対策への対応を充実させ、研修会などを通じて税金や法律への意識を高め知識の蓄積を図ること、ならびに外部専門家の活用による相談機能の強化充実にも努めてまいります。

3. 経営管理方針

営農経済センター構想では、北部地域の計画が遅れていますが、本年度は実現に向けた具体構想に着手し、組合員の負託に応えるべく進めてまいります。また、稼働中の南部営農経済センターでは、より一層の効率化を目指し、配送等の見直しの検討を行い、それを実行してメリットの還元を目指します。

経営の合理化・効率化を目指し組合員のニーズに応える為に、新たな固定資産の取得が想定されることより、経営の健全性を図るために、一方では、固定資産の減損会計を視野に入れた遊休資産の有効活用、または、地域に理解をいただいた中での処分も検討し着手してまいります。

不祥事の未然防止のための内部統制・内部牽制機能を発揮し、あらゆるリスク発生の未然防止に努め、社会的信頼・信用の維持向上に努めてまいります。

人事労務基本方針を策定し、職能資格制度を中心とした人事諸制度の適正な運営と能力開発を行い、適切な人事労務管理に努めてまいります。

JAふかやと地域社会

JAふかやは、深谷市、寄居町を区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助(お互いに助け合い、お互いに発展していくこと)を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

JAふかやでは、皆さまからお預かりした大切な財産である「貯金」を源泉として、資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

JAふかやは、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

JAふかやは、組合員の皆さまや地域のお客さまの着実な資産づくりのお手伝いをさせていただきます。

組合員の皆さま・地域のお客さま

うち組合員数 12,352人

JAにおける「組合員」とは？
地区内にお住まいや事務の方は組合員になる資格があります。また、組合員以外のお客さまへも一定の範囲内でJAのサービスをご利用いただけますので、お気軽にお声掛けください。

地域からの資金調達状況

当JAでは、お客さまのニーズにお応えするため、旅行を目的とした定期積金や公的年金お受取りの方を対象としたイベント企画などをご用意していますが、今後も新商品の開発やサービスの一層の充実に向けて努力してまいります。

貯金・定期積金残高

148,697百万円

出資金 1,567百万円
貯金 定期積金 148,697百万円

JAふかや

常勤役職員 258名
店舗数 16店
ATM設置台数 18台
営農経済センター 1店舗
ガリノスタンド・直売所等 13店

貸出金

支援サービス

営農支援

地域への資金供給状況

(貸出金に関する事項)

お客さまからお預かりした大切な貯金積金を、資金を必要とされている組合員、地域にお住まいの方や事業者の方々へ資金を適正に供給し、農業や地域経済の活性化に寄与しています。

貸出金残高

18,858百万円

(単位百万円)

組合員 16,536
地公体等 224
その他 2,098

*制約融資の実績

農業近代化資金 9億

*農業支援融資商品

営農ローン/ 農業生産者保証資金etc.

*個人向けローン、事業者向け融資についても各種ご用意しています。

文化的社会的貢献に関する

事項(地域との繋がり)

(1)「地域との共生」を基本理念に小さな活動から合言葉に、福祉、スポーツや地域活動等の活動を通じて文化的・社会的貢献活動を展開しています。

詳細は「トピックス・地域社会貢献活動」に掲載していますのでご覧ください。

(2)利用者ネットワークとして、各種友の会や部会を設置し、さまざまな活動を展開しています。

詳細は「トピックス・地域社会貢献活動」に掲載していますのでご覧ください。

(3)JAだより等の広報誌やホームページを通じて情報提供やご意見を承っていますのでご利用ください。

<http://www.ja-fukaya.com/>

貸出金以外の運用に関する事項

安全性と流動性を重視した安定収益のためJA県信連預金や国債等の有価証券で運用しています。

JA県信連等預金残高 118,928百万円

有価証券残高 16,976百万円

組合員の皆さま・地域のお客さま

計数は、平成21年3月末現在です。なお、記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。記載内容、商品についてご質問がございましたら、お気軽にお声掛けください。

リスク管理/コンプライアンス/内部監査

1. リスク管理の基本的な考え方

経済・金融の各種商品やシステムの複雑化と高度化が一段と進展し、IT技術の進歩が社会に大きな変革をもたらすようになった今日、JAを取り巻く経営環境は急速に変化しています。また、規制緩和の進展により、業態を超えた提携や異業種からの金融業務参入など、競争がますます厳しさを増しています。そのため、JAが抱えるリスクはかつてないほど大きく幅広いものとなっています。

JAが抱えるリスクには、信用リスクや市場リスクのように経営環境によるリスクと、事務リスクや情報資産リスクなどのように業務活動に伴い必然的に発生するリスクとがあります。JAは、とるべきリスクと回避すべきリスクとを的確に見極めて、安定的な経営を確保する必要があります。

当JAでは、JAバンクの基本方針に基づく「モニタリング」の実施や「各種のガイドライン」等を定めて内部統制を強化しています。

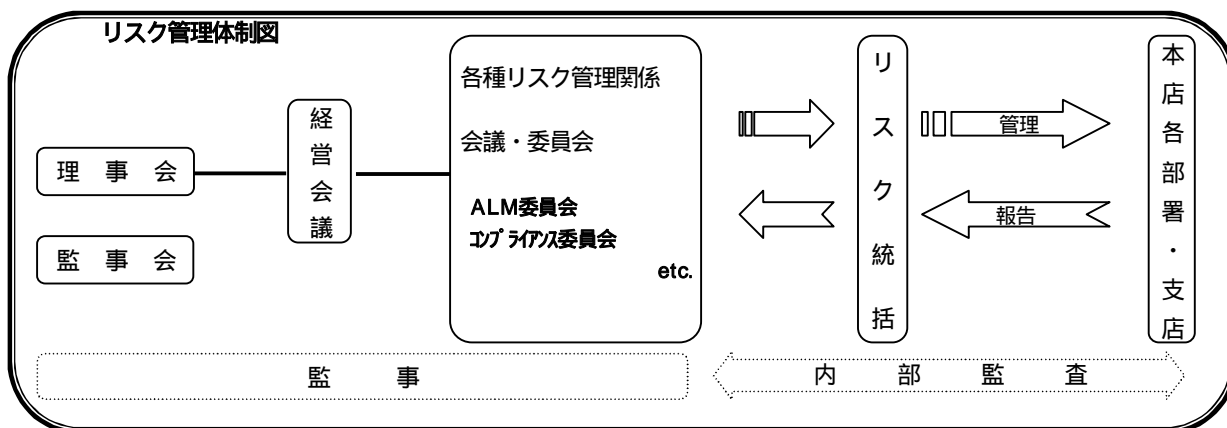
また、これらのリスクを総合的に管理、コントロールすべく、経営層をメンバーにした各種の委員会・会議等で組織横断的な協議ができるリスク管理体制としています。

このように、当JAをご利用する皆様が安心してお付き合いいただけるJAをめざして日々リスク管理態勢の向上に努めております。

リスク管理体制

当JAでは、各種委員会・会議等でリスクの状況を検証するとともに、リスク管理・運営に関する方針を審議し、理事会で決定しています。

また、信用リスク管理の充実を図るための審査担当部署を設置するとともに、情報セキュリティ委員会等により、オペレーショナルリスクへの対応強化を図っております。



信用リスク管理（信用リスク：与信取引先の財務状況悪化等により損失を被るリスク）

当JAでは、資産の健全性を維持・向上させ、組合員・地域の皆様方に積極的な事業運営をしていくことを最重要課題としています。規程に基づく自己査定制度を根幹に、融資（推進）と審査とを分離した個別案件の審査・与信管理により牽制が働く体制としています。また、貸出資産全体からのポートフォリオ管理を行い、信用リスクが集中しないよう適切な管理を行っています。さらに、経営陣を含めた融資委員会を開催して重要案件を審議しています。

この審査体制を支える人材の育成については、融資・審査業務の専門家の育成とともに、各役職務に応じた実践的な教育研修プログラムを実施し、体制の強化に努めています。

市場リスク管理（市場リスク：金利、株価等の変動により損失を被るリスク）

当ＪＡでは、このリスクに対しては、運用方針と資金バランスの適切な把握が最も重要であると考えています。よって、運用は、安全性と流動性を重視し、金利変動のヘッジ及び安定収益を確保するための資金ポートフォリオの構築という基本方針や取引極度を経営陣により決定し、定期的報告を実施するとともに、経営陣を含めたＡＬＭ委員会や運用会議等では、運用・調達構造の点検をして財務内容の安定に努めています。

また、運用においては、取引執行部門と事務・オペレーション部門とを分離し、牽制が効果的に働く体制を構築しています。

オペレーショナルリスク管理

（オペレーショナルリスク：内部管理上の問題や外部要因により損失が発生するリスク）

当ＪＡでは、オペレーショナルリスクを、流動性リスク、事務リスク、情報資産リスク、人事労務・不正に係るリスク、法務・コンプライアンスリスクに係るリスク、災害に伴うリスク、評判リスクなどを含む幅広いリスクであるとともに、このリスク管理がお取引いただく皆様との日々の信頼関係を築く上で最も基本となるものと考えております。

当ＪＡでは、このリスクを適切に認識・コントロールする体制の整備・充実に積極的に取り組んでおります。

流動性リスク管理：流動性リスクとは、財務内容の悪化などにより資金繰りがつかなくなるリスクです。

当ＪＡでは、資金調達の構成や資金の流動性をＡＬＭ委員会で点検し、適正な資金流動性を確保しています。また、系統ＪＡグループ全体で対応する体制も整えています。

事務リスク管理：事務リスクとは、役職員の誤った事務処理や不正などにより損失を被るリスクです。当

ＪＡでは、貯金、為替、貸出などの金融業務に加え、共済業務や経済業務まで多種多様な業務について、手続・権限の厳格化、機械化による手作業事務処理の削減、現金・現物の管理体制の強化、事務事故のデータベース化、内部監査、事務指導の充実を図り事務リスクの削減に努めています。

発生した事務事故などは、当ＪＡの全業務部署で共有し、再発防止を図っています。

情報資産リスク管理：情報資産リスクとは、システム障害や情報漏洩などにより損失を被るリスクです。

当ＪＡでは、系統ＪＡグループの全国システムにいち早く移行するとともに、重要なシステム導入に当たっては経営陣を含む特別委員会を設置するなどしてテスト経過などを慎重に検討しています。万一システム障害が発生した場合の影響を極小化するため、インフラの２重化や障害時対応訓練等の実施など必要な対策を講じています。

取引先の情報や個人情報については、情報保護のため、システムへの不正侵入の防止策を講じるとともに、情報の機密性に応じた管理を行っています。

発生したシステム障害や情報漏洩などは、当ＪＡの全業務部署で共有し、再発防止を図っています。

2. コンプライアンス（法令等遵守）態勢

「コンプライアンス」とは、一般的に「法令等遵守」と解釈され、JAが日常業務を遂行する上で関わってくる数多くの法令・規則等を遵守することはもちろんのこと社会的規範を全うし正しく行動することです。

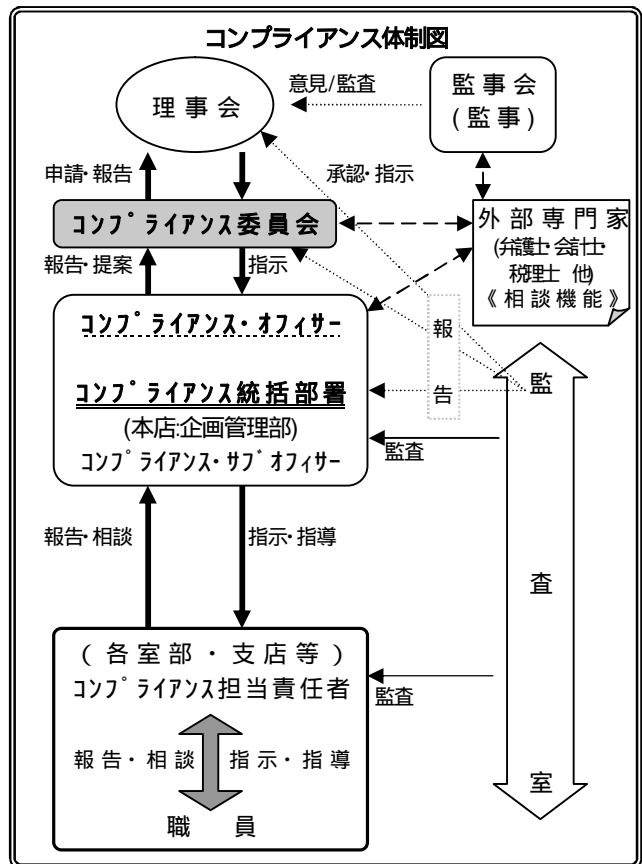
地域金融機関であり、農業者・組合員の相互扶助組織であるJAは、農業、地域経済・社会の健全な発展に寄与する使命を持っていることから、より高い公共性と社会的責任が求められています。

当JAでは、代表理事組合長以下役職員全員が日々の業務活動の中で「コンプライアンス」を着実に実践していくことが、組合員や地域社会から「信頼」される基本であると考え、経営の最重要課題と位置づけ取り組んでいます。

コンプライアンス体制と運営

当JAでは、コンプライアンス統括部署を企画管理部として、経営陣を含むコンプライアンス委員会を設置するとともに、すべての室部課、支店、事業所等にコンプライアンス担当責任者を設置し、コンプライアンスの啓発活動や遵守状況のモニタリングや自店検査等を行っています。

年度ごとにコンプライアンス委員会で策定した「コンプライアンス・プログラム」を理事会で決定し、コンプライアンスの実践に取り組んでいます。また、コンプライアンスの組織風土を役職員一人ひとりに浸透させることが重要であることから、コンプライアンス委員会は、「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、全職員にこれを周知させるよう各種会議や研修会等の機会を利用して指導しています。さらに、経営者自らも率先垂範してこの実践と指導に当たっています。



3. 内部監査

内部監査は、経営目的を達成するための内部管理体制の適切性や有効性を、業務部門から独立した部門が検証し、必要に応じて問題点の改善・是正に関する提言を行うプロセスです。

当JAでは、法令等を遵守し、適切なリスク管理体制を整備するうえで、内部監査機能の整備が必要不可欠との認識のもと、監査室を設置し、リスクの種類・程度に応じた監査計画に基づき、効率的かつ実効性のある内部監査の実現に努めています。

地域社会貢献活動

社会的責任や社会的貢献に対する考え方

J Aふかやは、貯金や融資等の信用事業から共済事業、購買事業、販売事業、指導事業など、各種事業の展開を通じて、組合員の皆様への奉仕はもとより、地域の皆様に様々な事業機能やサービスを提供することにより、農業や地域経済社会の健全な発展に寄与することで社会的・公共的使命を果たしてまいります。

また、当JAは、地域社会の一員としての責任を自覚し地域社会に貢献する活動として、小学校への児童図書等の寄贈、交通安全運動、自治体との防災協定締結をはじめ、くらしの活動関係として、子ども110番等の防犯活動への取り組みなど地域社会に対する貢献活動や無料の法律・税務相談活動、年金友の会、共済友の会、女性部等の活動など、地域の各種行事や催事等への参画やJAの社会・文化的活動をとおして、少しでも地域社会の発展や活性化のお役に立ちたいと思っています。

今後とも協同組合運動の理念である「一人は万人のために、万人は一人のために」を念頭におき、より良き地域社会人として、組合員の皆様をはじめ地域社会の皆様と一緒に歩んでいきたいと思っています。

農業の担い手育成に向けた取り組み

J Aふかやは、「新たな食料・農業・農村基本計画」(平成17年3月閣議決定)を踏まえ、将来の農業の持続的発展に向けて、農業担い手育成に、積極的に取り組んでいます。

また、農業担い手を金融面から支援するため、「担い手金融リーダー」の設置等、担い手金融機能強化に取り組みます。

トピックス

「第7回通常総代会」の開催

平成20年6月12日、深谷市民文化会館にて開催し、第7期事業報告等20議案について審議され、原案通り可決承認をいただきました。

「役員コンプライアンス研修会」の開催

平成20年7月28日、全ての役員を対象として研修会を開催しました。

年金友の会「ゲートボールJA大会」の開催

平成20年8月6日、すばく岡部にて開催しました。

年金・共済友の会「ゴルフJA大会」の開催

平成20年9月17日、上里ゴルフ場にて年金友の会、共済友の会合同で開催しました。

「職員コンプライアンス研修会」の開催

平成20年11月7日～8日、21日～22日及び12月5日～6日、全ての職員を対象として1泊・3班編成で研修会を開催しました。

年金友の会「集い」旅行の開催

平成20年11月17日～28日までの間、3班で館山寺温泉方面への旅行を開催しました。

「職員コンプライアンス研修会」の開催

平成21年2月17日～18日、全てのパート職員を対象として研修会を開催しました。

年金友の会「いきいきツアー」の開催

平成21年2月20日、「むさしの村」へのツアーを開催しました。